

Soundscape(サウンドスケープ)とは、音(sound)と、日常生活における風景や景色を構成する諸要素(landscape)を組み合わせた造語



クラスマッチ リレーの風景
久しぶりに全校集合！校内に熱気ある歓声が戻りました

6月16、17日、天候にも恵まれ3年ぶりに春のクラスマッチを開催できました。文化祭を控える中、感染拡大に配慮し学年別の大会でしたが、思い切り体を動かし汗を流す、爽やかな生徒たちの姿が見られました。最後の種目は全校が一堂に会してのリレー。全校が集まれる風景は、本当に久しぶりなんだろう…これが本来の学校。生徒たちの姿に胸が熱くなりました。そして、終始気持ちの良い生徒たちの姿に、感動しました。プレーを失敗しても険悪な雰囲気は一切なし、補いあいながら拍手を送り、応援してくれたクラスの仲間に「ありがとう」とお礼を言う姿。こういう行動が見られるのも行事ならではです。2年間の空白を感じさせない光景を、ずっと見ていたい時間でした。

今だからこそ考えたい、芸術の力

6月8日に図書館の企画として「私と『出会い』」をテーマに、私の個人的な10の出会いについてお話をさせていただきました。図書館にあふれる生徒が訪れてくれてまずびっくり！校長というとつきずらい感じの存在を近くで見たいという感じでしたでしょうか…(私は決して壁をつくりませんのでどうぞお気軽に接してください)私の大切な出会いに「本」と「絵画」があります。音楽との出会いも含め人生を豊かにおくれている大切なものです。森信三さんの言葉「人は一生のうち会うべき人に必ず会える。一瞬たりとも早からず一瞬たりとも遅すぎず」のとおり、すべての出会いは必然であったと振り返ると感じられます。作家 原田マハさんの本との出会いも衝撃でした。2016年刊行の「暗幕のゲルニカ」はその中でも大切な出会いであり、今まさに皆さんにも読んでほしい本です。スペイン出身のパブロピカソは反戦・反抗の象徴として第二次世界大戦の2年前、さまざまな国の思惑が動いた1937年、ドイツへの怒りを込めて「ゲルニカ」を制作します。ゲルニカの絵は悲しみの絵ではなく「ああっ！」と声を上げている「怒りの絵」。罪のないゲルニカの一般市民が1600人以上虐殺された怒りを芸術の力を信じピカソは訴えます。2003年、当時のパウエル国務長官がイラク攻撃を正当化しようとする演説を行ったとき、国連に掲げられていたゲルニカのタペストリーは何者かによって暗幕で覆われていました。この話をもとに書かれた小説が「暗幕のゲルニカ」です。原田さんは、「絵画が、小説が、音楽が直接戦争を止めることはできないかもしれない。でも、できるかもしれないと思いつけることが大切」と言います。私が教員として伝えたかった答えは、これなんだとあらためて強く感じたところでした。芸術の持つ計り知れない底力。もう一度しっかり向き合おうと思います

書道部がんばりました

全国大会出場！おめでとう！
15日、ドキドキしながら結果を待ちました。やった！全国大会出場決定です。伝統を継承することのプレッシャーや全国3連覇の重圧は計り知れません。毎日よく練習を重ねました。全国へつなげた令和4年の切符は「今年」の宝。思いのたけを全国でぶつけてください

